



研修初日(11. 14)

①
いよいよ2ヶ月ぶりの後期研修が始まります。



②
今回もまた、研修開始のアイスブレイクを兼ねて、プロセスマネージャー西さんの合図で、今回研修皆さんに準備していただいた宿題についての自己評価を親指の立ち具合で表しています。
上向きのグー！なら自信たっぷりという意味なのですが、皆さん、親指を下向きにして、“プーイングの嵐！？”のような光景に・・・



③
恒例の一人一言挨拶です。大部分の研修生は2ヶ月ぶりの対面となります。

この間の各人の取り組みや宿題準備の苦労話などが出され、久しぶりの再会となる研修生同士も、全員が言葉を発するうちに雰囲気はほぐれていくようです。



④
早速研修のスタートです。後期研修も内容盛りだくさん！演習や発表も多く、最初からグループに分かれ講義が開始されます。



⑤
まずは、林野庁の高井講師による前期研修の内容をおさらいにはじまり、引き続き前半の3日間をかけて行う「森林整備企画演習」の意義や演習の流れを説明します。



⑥
「森林整備企画演習」では、前期研修での様々な内容も踏まえた上で、路網整備等効率的な施業構想の策定を通して地域林業の将来ビジョンの考え方についての知見等を養うことをねらいとします。

班ごとの作業に入る前に、図面等の資料の見方、各種前提条件の解説、経費等集計用のエクセルシートの使い方等々、詳細の説明を関東森林管理局 販売課 松本講師、東京事務所市村講師より行いました。



⑦
初日は机上にて、研修用に仮想した1,000HA程度を対象森林において、調査簿・図面等の情報をもとに、10年間の具休の森林整備箇所、林業専用道の位置、線形等を検討します。

与えられた条件・情報は同じですが、出てくる意見は、研修生自身の地域性なども反映されて、各班ともにバラエティに富んだ様々な観点が満載です。



⑧
初日の最後に、中間発表として、主に林業専用道の配置について、机上で考えた段階の案を各班ごとに報告して比較してみました。

路線数や線形もそれぞれに異なり、比べてみると面白く、参考にもなります。



研修2日目(11. 15)

①
2日目午前中は、初日に机上で検討した箇所を、実際に現地で確認します。地理的・時間的制約から、つづさに見て回ることではできませんが、対象地を遠望したり、既存の林道の分岐点を参考にするなどで、自分たちが検討した林業専用道の線形や作業システムについて、再検討や改善を図るための現地踏査の演習です。



②
県道に近い場所にある中間土場において、販売戦略を考える上での「土場」の重要性や、最新のトレンドをつかんだ販売方法について、関東森林管理局 販売課の金子講師、林野庁高井講師より解説を行います。



③
対象地の中心を流れる本谷に沿った林道上から、上流を遠望し、全体の大まかな地形を読み取りつつ、林業専用道と森林作業道の組み合わせ、車面系や架線系といった作業システムについて班ごとに現地検討をしています。



④
前日に各班が、図面上で林業専用道の取り付けを考えた場所に実際に車を止めて確認しています。
現実の地形を見ながら、き上で考えた線形が妥当かどうかを検証します。

机上では読み取ることができない現地の状況を実際の現場で目で見て確認するという行為の重要性を改めて認識できます。



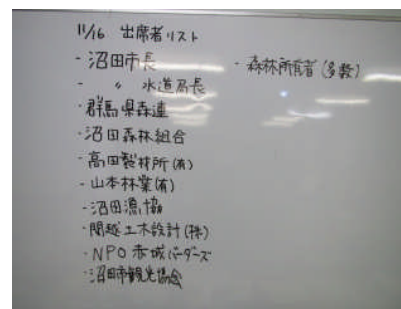
⑤
対象地の上端に近いところから、下方を遠望します。
下から見上げた状況と、上からの印象を確認して、全体像を把握できたか各班で取りまとめています。



⑥
お昼過ぎに現場から室内に戻り、ここで高井講師から、この後の演習にも生かすべく、集約化施業や販売に関する情報提供のミニ講義を行いました。



⑦
ここからは、実際に見てきた現地の状況を踏まえて、具体的に林業専用道の線形を修正しつつ固めていくと府同時に、10年間の森林施業の箇所付けや順序を検討し、経費と収益を計算するエクセルシートの入力を行い、森林施業の構想を立てていきます。



⑧
今回は今までになかった手法として、翌日の発表は、このような出席者がいる説明会であると仮定し、聞き手はこれらの出席者のいずれかの役で質問等を行うという、ロールプレイングを取り入れました。
各班は、イメージを膨らませつつ発表準備を進めました。



研修3日目(11.16)

①
3日目朝一番、最終調整をして発表に備えます。



②
「森林整備企画演習」の総まとめとして、各班より演習成果を発表していきます。

パワーポイントを用いて、林業専用道の作設・施業の計画・販売戦略や長期的な地域のビジョンをそれぞれの工夫を凝らしてまとめてあります。



③
発表では、地域の首長にプレゼンするという設定のもと、限られた時間の中でいかに相手に伝えられるか、ということ念頭に置き、グラフや文字の見やすさ、キャッチフレーズのインパクトなど様々な工夫が見られます。



④
林業専用道の配置・線形や施業の箇所・順序、作業システムごとの区域分けなどを図面上で表現して説明します。



⑤
各班の発表に対して、事前に仮定しておいた地域の関係者になりきって、それぞれの立場からの質問がなされます。
実際の説明会で起こりそうな状況のよいシミュレーションとなって、今後に役立つことでしょう。

	新設延長 m	作設費 千円	平均単価 円/m	合計延長 m	密度 m/ha
1班	17,900	467,000	26,089	24,100	33.8
2班	19,800	548,000	27,576	28,000	38.4
3班	12,600	280,000	22,222	18,800	26.3
4班	6,600	165,000	25,030	12,800	17.9
概設	6,200		0	6,200	8.7

⑥
最後に高井講師より、各班の取りまとめ表なども用いて、全体の講評やアドバイスをを行いました。

この発表をもって、初日から足掛け3日間かけて行った「森林整備企画演習」は終了です。



⑦
さあ次は、息つく間もなく次の演習「市町村森林整備計画(案)によるワークショップ」に突入です。

まずは林野庁の岩田講師より、この演習のねらいを説明します。



⑧
この演習は、研修生各人事前に用意していただいた演習用の市町村森林整備計画(案)をもとに、班内で意見交換を行うワークショップです。

それぞれの地域特有の森林林業を取り巻く背景や地形、気候、樹種の特徴や生産・販売面の状況、木材需要や流通の特性などを説明しつつ、それらに応じたゾーニングや施業の構想をどのように考えているか、工夫した点や課題は何か、等々をお互いに出し合います。



⑨
班ごとのワークショップののち、各班から一つの事例を発表していただきました。



⑩
それぞれの特色ある計画案と、苦労した点、工夫などの共有は、各地位での今後の実際の作業に役立つものと思われます。

研修3日目は、二つの演習発表が行われる、とても忙しい一日でした。皆さまお疲れ様でした。



研修4日目(11. 17)

①
4日目の朝、7名の森林施業プランナーが合流しました。
残りの2日間、主に森林経営計画について准フォレスター研修生と共に演習等を通して学びます。



②
この日最初の講義は、再生プランを進める上でも、非常に重要なポイントとなる「森林施業における労働安全」について、林災防東京支部の上野徳也講師より、労働災害の現状と対策、リスクアセスメント等について、豊富な事例と教訓を交えた講義を受けます。



③
続いて、「木材の流通・販売」に係る講義です。
講師の株式会社 山田事務所 山田稔氏のお話は、木材流通現場の具体的で最新、きわめて現実的な内容であり、川上から川下までの繋がりを考える上でとても勉強になります。研修生にとって、大変刺激的な講義内容です。



④
午後からは、いよいよ森林経営計画に入っていきます。
まずは林野庁の岩田講師より「森林経営計画の概要」について、講義を受けます。
制度的な事項については、今後各地域に帰ってからの作業に関連するため、皆さん注意深く確認しながら受講しています。



⑤
4日目の最終コマは、「森林経営計画作成演習」です。事前に研修生同士の相談により準備された計画案に対して、森林施業プランナーと准フォレスターとしての議論を行います。



⑥
森林施業プランナーを交えての討議は、これまでの演習とはまた違った雰囲気です。

プランナーの提案に対してのフォレスターとしてのアドバイスのポイントなど、森林経営計画の策定について、お互いの立場からの視点を疑似的体験を通して養います。



研修最終日(11.18)

①
いよいよ研修最終日、「森林経営計画作成演習」の仕上げです。

岩田講師よりスケジュール説明ののち、昨日、各班で話し合った森林経営計画について、発表と意見交換を行います。



②
各班のプランナーから、計画の概要や地域の特徴を踏まえた構想を発表します。



③
各地域の特色ある森林経営計画に、それぞれ学ぶところがあります。各班からは、計画案の作成に当たり苦労や工夫した点、准フォレスターとしてアドバイスしたことや今後に向けた留意点などを出し合い、全員で共有します。



④
各班の発表に対しての講評と、補足説明等を岩田講師より行います。



⑤
高井講師から、各班の計画について、取りまとめ表を用いて分析やアドバイスがなされました。



⑥
准フォレスター研修生にとっては、前後期10日間、プランナーにとっては2日間の締めくくりとして、最後のコマではそれぞれの立場からこの研修をふりかえります。



⑦
今後必要な取組みの整理や、挑戦すべき事項を考え、これらも踏まえた各々の目指すべき理想像も含めて一人一人から発表していただきました。



⑧
研修所で行う、前後期にわたる研修もこれで終了です。このあとに通信研修と集合研修を経て、今年度のカリキュラムは完成します。
皆様、本当に疲れ様でした！